

SHIRAKOBATO

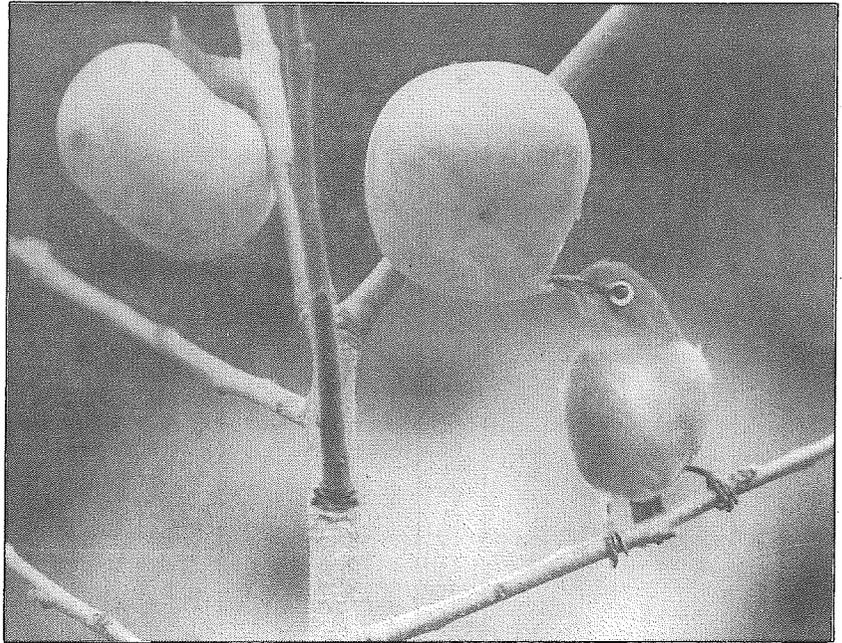
# しらこぼと



1989. 11

SOCIETY OF JAPAN · SAITAMA

WILD BIRD



NO. 66

日本野鳥の会 埼玉県支部

# 東進するイワツバメ!

— 1989年夏鳥分布調査 —

日本野鳥の会埼玉県支部研究部

1989年夏は、1988年夏と同じく台風が発生する熱帯収束帯が緯度で5度北上し、去年と打って変わった猛暑の中、台風や低気圧が続々と上陸しスコール的な雨が降った。

1989年夏の県内野鳥分布調査は会員諸氏の御協力(表1)により実施され、地域別(表2)の種別生息状況が得られた。

イワツバメは、1960年代、冷温帯及び亜寒帯つまり本州の山地と北海道の平地から高山にかけての岩場で繁殖し、まれに海岸の岩壁にも生息していた。北海道では特に鉄道のホームに多数営巣していた(清棲1966)。1970年代に入り、北海道、本州北部では平地にも多数繁殖し、本州では標高の低い地にも分布が広がって行く傾向があった(小林1976)。

1980年代に入り、特に鉄道高架橋や高速道東側の丘陵で観察されている(小杉1978)。

1980年代に入り、特に鉄道高架橋や高速道路等の大規模な人工建造物に営巣する機会が増え、丘陵から台地、低地へと分布域を東進させ(表4)、都市鳥的な性格をもちつつあるように思われる。

<文献>

清棲幸保 1966 野鳥の事典 東京堂出版 東京

小林桂助 1976 原色日本鳥類図鑑 増補改訂版 保育社 大阪

小杉昭光 1978 埼玉の鳥類 埼玉県動物誌 45~86 埼玉県教育委員会 浦和  
(執筆 小荷田行男)

表4 埼玉における過去50年のイワツバメの生息

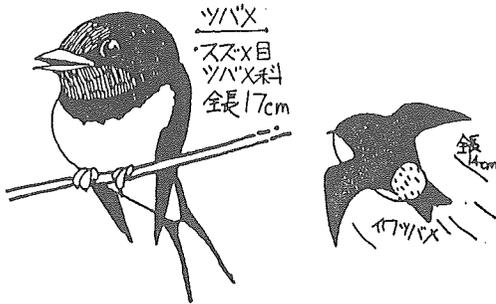
地域	調査地	調査年	夏鳥	文献	地域	調査地	調査年	夏鳥	文献
県南東	草加	1938~1942	—	(野口1942)(野口1943) (環境庁 1981) (日本野鳥の会1982) (埼玉野鳥の会1987) (越谷の自然を調べる会 1989)	県央・東 県央・東 県央・東 県央・東		1978	—	
	越谷	1979~1980	—				1986	—	
	越谷	1982~1989	○				1988	—	
	県南東	1985	—				1989	—	
	県南東	1986	○						
県南東	県南東	1987	○		県北 熊谷・川本 県北 県北 県北 県北		1988	○	(堀江他 1978) (環境庁 1981) (今井 1986)
	県南東	1988	○	1985~1977			—		
	県南東	1989	○	1978			○		
				1985~1986			○		
				1985			○		
県南中	見沼	1972~1983	○	(大島 1983) (松田 1984) (埼玉野鳥研 1984) (環境庁 1981)	県西 県西 県西 県西 県西		1973~1984	—	(環境庁 1981)
	秋ヶ瀬	1974~1982	○				1978	○	
	秋ヶ瀬	1978	○				1985	○	
	県南中	1985	○				1986	○	
	県南中	1987	○				1987	○	
県南西	狭山丘陵	1965~1979	○	(荻野 1980) (環境庁 1981) (入間野鳥の会 1983)	県西 県西 県西 県西 県西		1978	○	(環境庁 1981)
	所沢、入間、狭山	1978	○				1985	○	
	県南西	1982	○				1986	○	
	県南西	1985	○				1987	—	
	県南西	1986	○				1988	—	
県央・東	庄和	1978	—	(環境庁 1981) (吉岡 1984)	秩父 秩父 秩父 秩父 秩父		1983~1984	—	(環境庁 1981)
	県央・東	1985	—				1985	○	
							1986	○	
							1987	○	
							1988	○	

表1 調査概要

調査期間	1989年5月10日～7月10日		
調査者	会員 43名		
調査内訳	調査はがき	26枚	
	調査票	83枚	
調査メッシュ	141メッシュ		

表2 埼玉県の地域区分

地域	地形区分	おもな都市	備考
県南東	低地	草加、越谷	
県南中	台地、低地	川口、浦和 大宮、上尾	
県南西	台地、低地	所沢、川越	
県央・東	低地	鴻巣、久喜 加須、栗橋	
県北	台地、低地	熊谷、深谷 本庄	
県西南	丘陵	飯能、越生	1986年冬より調査開始
県西北	丘陵	皆野、寄居	
秩父	山地	秩父山地	



(注1) 紙面の都合上、全地域に生息しているコジュケイ、キジバト、ツバメ、ヒヨドリ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、オナガ、ハシブトガラス、ハシボソガラスの10種は表から削除してある。

(注2) トビ以外のワシ、タカ類は保護のため削除してある。

(注3) 日本で繁殖しないシギ・チドリ等は削除してある。

(注4) 本調査は繁殖調査でないため、期間中に国内繁殖種であれば明らかに通過であっても示してある。

表3 県内の地域別種別生息状況

地域 種名	85	86	87	88	県南	県南	県南	県央	県西	県北	秩父
	年夏	年夏	年夏	年夏	東	中	西	東	北	南	北
カイツブリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コアホウドリ	○	○	○	○							
コシジロウミツバメ										○	
カワウ	○	○	○	○	○	○				○	
ヨシゴイ	○	○	○	○							
ミゾゴイ	○	○					○				
ゴイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ササゴイ	○	○	○	○			○	○	○	○	
アカガシラサギ				○							
アマサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ダイサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
チュウサギ	○	○	○	○	○					○	
コサギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アオサギ	○	○	○	○					○	○	
コブハクチョウ	○										
オシドリ				○							○
マガモ				○			○	○	○	○	
カルガモ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コガモ		○	○	○	○	○					
シマアジ										○	
ハシビロガモ				○			○				
ホシハジロ				○			○				
キンクロハジロ	○						○				
トビ	○	○	○	○				○	○	○	○
ウズラ				○						○	
ヤマドリ	○										
キジ	○	○	○	○			○	○	○	○	○
クイナ							○				
ヒクイナ	○	○	○	○			○	○	○		
バン	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
オオバン				○			○	○			
タマシギ				○			○				
コチドリ	○	○	○	○			○	○	○	○	○
イカルチドリ	○	○	○	○			○	○	○	○	○
シロチドリ	○	○	○	○						○	
タゲリ										○	
イソシギ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヤマシギ	○										
オオジシギ	○			○							
セイタカシギ				○	○						
ツバメチドリ	○	○	○							○	
ウミネコ							○				
コアジサシ	○	○	○	○			○			○	
シラコバト	○	○	○	○						○	

地域 種名	85 年夏	86 年夏	87 年夏	88 年夏	県南 東	県南 中	県南 西	県央 東	県北 東	県西 南	県西 北	秩父
アオバト	○	○		○								○
ジュウイチ	○	○	○	○			○					○
カッコウ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ツツドリ	○	○	○	○					○	○	○	
ホトトギス	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
コノハズク	○	○										○
オオコノハズク		○										
アオバズク	○	○	○	○	○	○	○		○		○	
フクロウ	○	○	○	○						○		
ヨタカ	○	○	○	○						○	○	
ヒメアマツバメ	○			○			○	○				
アマツバメ	○	○	○	○			○	○	○	○		
ヤマセミ	○	○	○	○						○	○	
アカショウビン	○	○		○								
カワセミ	○	○	○	○	○	○		○	○	○		
ブッポウソウ	○	○										
アリスイ			○									
アオゲラ	○	○	○	○			○		○	○	○	
アカゲラ	○	○		○			○					○
オオアカゲラ				○								
コゲラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ヒバリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コシアカツバメ	○									○		
イワツバメ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
キセキレイ	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○	○
ハクセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セグロセキレイ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ビンズイ			○									
サンショウクイ	○	○		○								
モズ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
アカモズ	○											
カワガラス	○	○		○								○
ミノサザイ	○	○		○								○
イワヒバリ	○											
カヤクグリ	○											
コマドリ	○	○		○								○
コルリ	○	○	○									
ルリビタキ			○									○
ノビタキ	○											
イソヒヨドリ	○											
マミジロ	○	○		○								
トラツグミ	○	○	○	○								
クロツグミ	○	○	○	○	○	○						

地域 種名	85 年夏	86 年夏	87 年夏	88 年夏	県南 東	県南 中	県南 西	県央 東	県北 東	県西 南	県西 北	秩父
アカハラ	○	○	○									
ヤブサメ	○	○		○			○					
ウグイス	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
コヨシキリ	○	○	○	○			○			○		
オオヨシキリ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
メボソムシクイ	○	○	○	○			○					○
エゾムシクイ			○	○								
センダイムシクイ	○	○	○	○			○					○
キクイタダキ	○	○	○									
セッカ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
キビタキ	○	○	○	○			○					○
オオルリ	○	○		○								○
コサメビタキ	○	○		○								
サンコウチョウ	○	○	○	○			○	○				○
エナガ	○	○	○	○			○		○	○		
コガラ	○	○	○	○						○		○
ヒガラ	○	○		○								○
ヤマガラ	○	○	○	○				○		○	○	○
シジュウカラ	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
ゴジュウカラ	○	○		○								○
キバシリ	○	○										
メジロ	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
ホオジロ	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
コジュリン				○								
ホオアカ				○								○
ノジコ			○									
アオジ	○	○		○			○					
オオジュリン				○								
マヒワ	○											
ウソ	○	○	○									
コイカル			○									
イカル	○	○	○	○			○	○	○	○	○	○
シメ			○	○			○					
コムクドリ	○	○	○							○		○
カケス	○	○	○	○			○			○	○	○
ホシガラス	○											
ドバト	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
セキセイインコ	○	○										
ワカケホンセイインコ	○	○	○	○	○							
コウカンチョウ				○								
ベニスズメ			○									
ギンバラ	○											
キンランチョウ												○

## 会員の声



### 鐘撞堂山タカの渡り調査

林 滋 (美里町)

『しらこぼと』の記事どおり、10月1日の朝7時に山頂に立つ。まわりの山は霧に包まれて、なにも見えない。

しかし、早起きは三文の得。アカゲラやエゾビタキがバッチリ。メジロやコゲラなど、うるさいほど。

仮眠していると、だんだん山頂はにぎやかになる。朝のうちはサシバは渡らず、がっかりした。

昼近くなって、はるか上空をものすごいスピードで、雲の間から、羽をジェット機のようにちちめて飛び、あっという間に秩父の山なみに消えていった、その数、20数羽。

上を飛ぶサシバに目をうばわれ、歓声をあげるなかであって、いずこからともなく飛来し、静かに山桜の枝に羽を休めるエゾビタキの姿を指し示す支部長の姿があった。

さすがである。良き指導者にめぐまれた支部会員はしあわせである。

### 不審な動きのスズメ

小林由紀子 (栗橋町)

カワセミを見ました。9月28日、午後3時頃、栗橋の高校近くの用水路で1羽。不審な動きのスズメだと思い、メガネをかけなおしたら、背中がブルーで、お腹がオレンジ色だった。

近くにもカワセミがいた！

できれば散歩のたびに出てきてほしい！  
(押川さんの絵のファンです。毎号、まっさきに見つけます。)



カワセミ (町田好一郎・本庄市)

### 先日見た鳥種不明の…

岩崎雄二 (東松山市)

先日見た鳥種不明の個体が飼い鳥等の「籠抜け」らしいものと判明いたしました。今思いますが飼い鳥でも狭い籠の中よりも、広々とした大空の下で過ごすのが本来の姿ではないでしょうか。ですから私の見た個体が籠抜けとはいえ、のびのびと飛び回っているところに出会った、そんな気がいたします。今でもどこかでのんびりと飛び回っているでしょう、そう願ってやみません。

今頃のカルガモたちは子ガモを連れて泳ぎ回っている、あるいは大空を旋回しながら飛び回っているのを見かけます。2年前の秋に、あるフィールドで観察しているおりに、飛び回っているところをハンターに撃たれ、ヤブに落ちて隠れているところへさらに2回も至近距離で撃つ場面を見ました。もしその年に生れたものと考え、わずか数カ月の生命であったということです。

カワセミの生息においても、観察していたフィールドで突然の河川工事が2カ所もあったなど地形も随分変化しました。どうにか繁殖した幼鳥を確認しましたが、危険を感じれば移動せねばならない状況のようです。

### アズ熊谷・埼玉のスイートポテトたち

## 総合8位!!

6月4日に開催されたバードソンの最終結果が発表されました。

埼玉県支部の公式チーム「アズ熊谷・埼玉のスイートポテトたち」(横山みどり・黒田佳子・金子真理・高橋夕香子)は、公式24チーム中、堂々総合8位になりました。

確認種類数65種=14位(1位は105種)、総募金額588,175円=5位(1位は1,085,161円)、個人スポンサー数290=7位(1位は962)という内容です。

全国合計で1,230万円以上の募金が寄せられました。日本野鳥の会の独自の調査研究を進める「野鳥を科学する基金」として積み立てられ、今後その利息分が有効に活用されます。

ご協力、本当にありがとうございました。



ハジロカイツブリ ◇9月23日、大宮市の深作沼で1羽(若林正徳)。  
アマサギ ◇8月8日、川島町の市野川付近の牧草地で200羽(市川計彦)。  
ヨシゴイ ◇7月31日、妻沼町の利根川、刀水橋上流の釣場で♂♀各1羽(市川計彦)。  
アオサギ ◇9月17日、戸田市道満で14羽(登坂久雄)。  
マガモ ◇9月16日、狭山湖でエクrips羽の♂1羽。カルガモの群れと一緒に泳いでいた(三田長久)。  
コガモ ◇9月13日午後5時45分、浦和市の白幡沼で2羽(海老原教子)。◇9月15日、狭山市の入間川、広瀬橋付近で4羽(三田長久)。◇9月16日、浦和市三室の芝川で15羽以上(小谷野勝栄)。  
オナガガモ ◇9月23日、戸田市道満で500羽以上(海老原美夫)。  
ハシビロガモ ◇9月23日、戸田市道満で10羽(海老原美夫)。  
シマアジ ◇9月17日、狭山市の入間川、広瀬橋付近で1羽(三田長久)。◇9月23日、戸田市道満で10羽以上(海老原美夫)。  
キンクロハジロ ◇9月24日、戸田市道満で♂1羽(海老原美夫)。  
オオタカ ◇9月9日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。  
サシバ ◇9月15日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。◇9月24日午前9時40分、狭山市の智光山公園で3羽(三田長久)。  
ハイタカ ◇9月17日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。◇9月26日、深谷市仙元山で1羽(小淵健二)。  
ハヤブサ ◇8月11日、本庄市の阪東大橋下流で成鳥1羽、幼鳥2羽(井上幹男)。  
チョウゲンボウ ◇8月11日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇8月15日、妻沼町の利根川、刀水橋上流で1羽(市川計彦)。  
ムナグロ ◇8月18日、鴻巣市大間の荒川河川敷で8羽。9月3日、同所で14羽(榎本

みち子)。  
トウネン ◇9月26日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。  
オバシギ ◇8月3日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。  
エリマキシギ ◇9月26日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。  
ツルシギ ◇9月17日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。◇9月26日、同所で2羽(高橋達也)。  
アオアシシギ ◇8月15日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。◇8月18日、鴻巣市大間の荒川河川敷で1羽(榎本みち子)。◇9月9日、戸田市道満で6羽(登坂久雄)。9月26日、同所で20羽(高橋達也)。  
キアシシギ ◇8月11日、本庄市の阪東大橋下流で1羽(井上幹男)。  
ソリハシシギ ◇9月23日、戸田市道満で1羽(海老原美夫)。  
オグロシギ ◇9月26日、戸田市道満で6羽(高橋達也)。  
オオソリハシシギ ◇9月26日、戸田市道満で2羽(高橋達也)。  
ユリカモメ ◇8月15日午前7時40分、本庄市の阪東大橋下流で夏羽4羽。下流に飛んで行く(井上幹男)。◇8月15日、妻沼町の利根川、刀水橋上流で2羽(市川計彦)。  
ウミネコ ◇7月18日、妻沼町の利根川、刀水橋上流で1羽(市川計彦)。  
アジサシ ◇8月15日、妻沼町の利根川、刀水橋上流で2羽(市川計彦)。  
ツツドリ ◇9月21日、北本市の石戸宿で1羽(岩波勇一)。◇9月23日、川口市差間のさかい橋付近で3羽。近くの木で争っていた。黒い目と胸の模様がはっきり確認できた(伊藤芳晴、手塚正義)。◇9月25日、戸田市の戸田公園で幼鳥1羽(高橋達也)。  
ホトトギス ◇9月17日、寄居町の鐘撞堂山で1羽(小淵健二)。◇9月19日夕方、鶴ヶ島町大田ヶ谷で赤色型♀1羽。電線にとまる(上田恵介)。  
アマツバメ ◇9月19日夕方、鶴ヶ島町から日高町にかけて合計数十羽。かなり低い所

を飛んでいた(上田恵介)。◇9月20日、戸田市道満で7羽(高橋達也)。9月27日午後5時、大宮市日進町で9羽(森本國夫)。  
**ヤマセミ** ◇9月12日午前6時20分、嵐山町の国際婦人会館付近の都幾川で2羽。しばらくして上流に飛び去る(橋本博夫、千枝子)。◇9月23日、寄居町の荒川、正喜橋付近で1羽(田口浩司)。  
**カワセミ** ◇9月28日午前7時、嵐山町の都幾川の土手に咲く曼珠沙華のそばにとまる。花の赤とカワセミのコバルトブルーが朝日に映えて、しばし見ほうける(橋本博夫)。  
**アオゲラ** ◇9月25日午前7時30分、嵐山町の菅谷館跡の枯れた赤松の梢に1羽。森の奥に飛び去ったが、盛んに「キョッ、キョッ」と鳴いていた(橋本博夫、千枝子)。  
**ショウドウツバメ** ◇9月20日、戸田市道満で9羽(高橋達也)。  
**ハクセキレイ** ◇8月下旬～9月下旬、朝霞市のJR北朝霞駅前のイチョウの木を20～30羽がねぐらにする(藤原寛治)。◇9月2日、坂戸市の高麗川、大家の堰で顔の黄色い個体が1羽(増尾隆、節子)。  
**モズ(高鳴き)** ◇9月13日、春日部市増田新田の自宅付近で今秋最初の高鳴きを聞く(石川敏男)。  
**コヨシキリ** ◇7月31日、妻沼町の利根川、刀水橋上流の魚釣場付近で3羽が歌合戦(市川計彦)。  
**セッカ** ◇9月23日、戸田市道満で巣立ちピナ4羽(海老原美夫)。  
**エゾビタキ** ◇9月21日、北本市石戸宿で1羽(岩波勇一)。  
**コサメビタキ** ◇9月17日、戸田市道満で1羽(登坂久雄)。◇9月21日、北本市石戸宿で1羽(岩波勇一)。◇9月27日午前7

時30分、嵐山町の大妻女子高校前の林の梢で1羽(橋本博夫)。  
**エナガ** ◇9月17日、寄居町の鐘撞堂山で5羽(小淵健二)。  
**ヤマガラ** ◇9月18日午前7時、嵐山町の菅谷館跡の赤松とクスギの林で1羽。エナガ20+、メジロ10、シジュウカラ7、コゲラ1と混群を作っていた(橋本博夫、千枝子)。  
**イカル** ◇9月14日午前6時、嵐山町の菅谷館跡の林で4羽(橋本博夫、千枝子)。◇9月17日、寄居町の鐘撞堂山で22羽(小淵健二)。  
**コムクドリ** ◇9月6日～9月21日、浦和市の白幡沼で10羽以上(海老原美夫)。◇9月10日、戸田市道満で1羽(高橋達也)。◇9月14日午前7時30分、浦和市鹿手袋の電線上に2羽。ムクドリの群れに混じってとまっていたので、ちがいがよくわかった(海老原教子)。  
**カケス** ◇9月25日午前7時30分、嵐山町の菅谷館跡の林で4羽が飛びかう。昨年より2週間も早い初認(橋本博夫、千枝子)。◇9月26日、深谷市仙元山で3羽(小淵健二)。



ヨシゴイ(市川計彦)

— 表紙の写真 —

— 1989 バードフォトコンテスト入選作 —

## メジロ(メジロ科)

甘いものには目のないメジロ君。チーチーと鳴きながら柿の実に寄ってきました。

最初はあたりを警戒しながら顔をつっ込んでいましたが、そのうち夢中になり、頬っぺたまで濡らしていました。

梅の花の蜜を吸っている姿を見かけ、体がうぐいす餅の色をしているため、ウグイスと間違えることがあります。

1987年11月3日/桶川市川田谷にて

(写真と文・北川慎一=本庄市)

# 行事あんない



野鳥や自然の好きな方、どなたでも歓迎。  
探鳥会に参加される場合、持ち物は、筆記用具、雨具、昼食、ゴミ袋、もしあれば双眼鏡など。参加費は、一般＝100円、会員及び中学生以下＝50円。受付は探鳥会当日です。特別な場合を除いて予約申込みの必要はありません。小雨決行です。

夢中になりすぎて、鳥を驚かしたり、植物を荒らしたりしないように。タバコの吸い殻やゴミを散らかすなんて事はもってのほか。いつもフィールドマナーをお忘れなく。

身支度ができたら、さあ出発！

11月1日～7日はバードウォッチングウィーク。この期間中、埼玉県支部では4か所で探鳥会を行ないます。楽しい自然体験のひとつを、あなたも。

(11月3日の探鳥会の詳細は先月号をご覧ください。)

## 上尾市 丸山公園探鳥会 (早朝)

期日：11月3日 (金・祝)  
集合：午前7時20分 丸山公園北口駐車場  
交通：JR上尾駅西口から上尾車庫ゆきバス

## 富士見市・柳瀬川探鳥会

期日：11月3日 (金・祝)  
集合：午前9時 東武東上線柳瀬川駅前

## 蓮田市・黒浜沼探鳥会

期日：11月5日 (日)  
集合：午前8時45分 蓮田駅東口  
(その後現地までバス利用)  
交通：東北本線浦和8：13発→大宮8：19→蓮田8：29着  
解散：午後1時ごろ  
担当：中島康夫、石川敏男、浅田徳次、小林恒雄、五十嵐浩  
見どころ：身近な自然を見直そう (I)。気がつけば、私たちの身の回りも、自然がずいぶん豊かです。

## 吉見町・吉見百穴周辺探鳥会

期日：11月5日 (日)

集合：午前9時30分 東武バス停百穴入口前  
交通：東武東上線東松山駅東口8：58発、または高崎線鴻巣駅東口8：50発のバス。  
解散：午後1時ごろ  
担当：榎本秀和、岡安征也、石井幸男、逸見嶮、内藤義雄、吉原俊雄

見どころ：身近な自然を見直そう (II)。沼には、今年もたくさんのカモがやって来ました。これからバードウォッチングを始めたい方、今ならカモと仲良しになれます。参加をお勧めします。

## 宮城県・伊豆沼探鳥会 (要予約)

期日：11月10日 (金) 夜行～12日 (日) 夜  
(定員に達したので受付は終了いたします。なお、参加者には案内状を発送いたしました。)

## 熊谷市 大麻生定例探鳥会

期日：11月12日 (日)  
集合：午前9時20分 秩父鉄道大麻生駅前  
交通：秩父鉄道熊谷9：00発→大麻生9：10着 / 秩父鉄道寄居8：52発→大麻生9：10着  
解散：午後1時ごろ  
担当：諏訪隆久、林滋、町田好一郎、関口善孝、高橋夕香子、田口浩司、宮坂亨  
見どころ：秋から冬へ、うつろいとき (I)。冬を日本で過ごす鳥たちが勢揃い。あなたも大麻生で、久しぶりの彼らに会ってみてください。

### 浦和市・三室地区定例探鳥会

期日：11月19日（日）  
集合：午前8時15分 北浦和駅東口 または  
午前9時 浦和市立郷土博物館前  
（北浦和駅の場合、その後バス利用）  
解散：午後1時ごろ  
後援：浦和市立郷土博物館  
担当：楠見邦博、福井恒人、渡辺周司、乗田  
実、手塚正義、伊藤芳晴  
見どころ：秋から冬へ、うつろいとき（Ⅱ）。

人里近くにも日本で冬を過ごす鳥がや  
って来ます。身の回りの小さな冬の息  
づきを、あなたのハートで受け止めて。

### 桶川市・川田谷探鳥会

期日：11月23日（木・祝）  
集合：午前9時 桶川駅西口  
（その後現地までバス利用）  
交通：高崎線大宮8：40発→桶川8：53着/  
熊谷8：23発→桶川8：47着  
解散：午後1時ごろ  
担当：北川慎一、乗田実、立岩恒久  
見どころ：刈田につどう冬の貴公子。江川ぞ  
いに広がる田園は姿を変えつつありま  
すが、今年もタゲリの姿を確認して、  
ほっと一安心の探鳥会。

### 栃木県・奥日光探鳥会

期日：11月25日（土）  
集合：午前6時50分 大宮駅東武線改札口前  
または、午前7時35分 春日部駅日光  
方面行きホーム最前部  
交通：東武鉄道快速（浅草7：10発→春日部  
7：42→東武日光9：13着）、および  
東武バス利用。切符は「日光フリーパ  
ス」がお得です。  
帰路：東武鉄道春日部19：20着利用予定  
担当：中島康夫、石川敏男、榎本秀和  
見どころ：冷たい空気の中に横たわる戦場ヶ  
原。広大な風景に溶け込んで、一日じ  
っくり歩きましょう。時間はゆっくり  
ゆったり、流れていきます。  
注意：足ごしらえと防寒はしっかりと。

### 『しらこぼと』袋づめの会

とき：11月25日（土） 午後1時～3時ごろ  
会場：支部事務局  
案内：こういう仕事も仲間が大勢集まると、  
けっこう楽しくできるもの。今日も事  
務局は、弾んだ声でいっぱいです。

### 野鳥写真クラブ定例会

とき：11月25日（土） 午後3時ごろ～5時  
会場：『しらこぼと』袋づめの会と同じ  
案内：野鳥や自然の大好きなあなた。そんな  
あなたのための写真クラブ。あまりカ  
メラをいじったことのない方も、まず  
は一度参加してみてください。

### 坂戸市・高麗川探鳥会

期日：11月26日（日）  
集合：午前9時 東武越生線川角駅前  
交通：川越線大宮7：53発→川越8：14着、  
東武東上線乗り換え8：20発特急→坂  
戸8：31着、越生線乗り換え、8：35  
発→川角8：44着  
解散：午後2時ごろ  
担当：藤原寛治、宮内武昭、三田長久、佐久  
間博文、長谷部謙二  
見どころ：木々の紅葉、カワセミの碧。日常  
生活を離れて、自然の素晴らしさを堪能  
しましょう。色彩鮮やかなこの季節、  
ちょっと絵になる探鳥会。

### 本庄市・阪東大橋探鳥会

期日：11月26日（日）  
集合：午前9時 本庄駅北口  
（その後現地までバス利用）  
交通：高崎線大宮7：42発→熊谷8：26→本  
庄8：49着  
解散：午後1時ごろ  
担当：林滋、北川慎一、町田好一郎、小淵健  
二、高橋夕香子  
見どころ：川面に色濃く冬の気配。カワアイ  
サやホオジロガモも阪東大橋ならではの。  
そしてこの冬も、ビッグな出会いが待  
っている？

# 行事報告

## 9月3日(日) 初級リーダー研修会

**講師** 飯塚利一(本部) **参加者** 研修生＝石井幸男、伊藤芳晴、笠原伸子、河辺達朗、佐久間博文、関口善孝、高橋夕香子、田口浩司、立岩恒久、角田真喜子、内藤義雄、橋本千枝子、橋本博夫、長谷部謙二、逸見嶮、三田長久、宮坂亨、遊佐京子、吉田喜代実  
役員・リーダー＝五十嵐浩、榎本秀和、海老原教子、海老原美夫、岡安征也、小淵健二、草間和子、楠見邦博、楠見文子、黒田佳子、小林恒雄、杉本秀樹、鈴木忠雄、諏訪隆久、中島康夫、乗田実、林滋、町田好一郎、松井昭吾、宮内武昭、山部直喜、横山みどり、吉原俊雄、渡辺敦

多数の参加者が熱心に研修を受け、新たに19人のリーダーが巣立った。皆さんよろしく。



熱気あふれる研修会

## 9月9日(土) 千葉県習志野市 谷津干潟

**人** 25人 **天気** 晴 **鳥** ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コチドリ シロチドリ メダイチドリ ムナグロ ダイゼン トウネン ハマシギ オバシギ キリアイ アオアシシギ キアシシギ イソシギ ソリハシシギ オオソリハシシギ ダイシャクシギ ホウロクシギ チュウシャクシギ ユリカモメ ウミネコ キジバト ツバメ ハクセキレイ

セッカ スズメ ムクドリ (29種) キアシシギやアオアシシギの声を聞くと干潟はもう秋。しかし、日差しはカンカンでまだ夏! キリアイなんて初めてという人が大半で、ここは埼玉じゃないんだと思った。

## 9月10日(日) 熊谷市 大麻生

**人** 35人 **天気** 晴 **鳥** コサギ トビ ノスリ イカルチドリ イソシギ キジバト カワセミ ヒバリ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシボトガラス (23種) スタートと同時にダイナミックなノスリと衝撃の出会いが! 夏を思わせる大変暑い日。初めが衝撃的すぎて、その後鳥が出ない。カイツブリも居ないじゃないか。しかし、木に止まるセグロセキレイを観察し、カワセミを観察した人も居た。秋が一步づつ近づく大麻生。今シーズンも大きな出会いに期待したい。

## 9月15日(祝) シギ・チドリ類一斉調査

天気にも恵まれ、浦和市の秋ヶ瀬地区など県下数箇所で調査が行われた。調査参加者の皆さん、どうもご苦労様でした。

**参加者** 荒木恒夫、石井智、石岡友二、伊藤芳晴、岩波勇一、榎本秀和、榎本みち子、海老原教子、海老原美夫、岡安征也、岡安ゆかり、金井祐二、草間和子、小林洋一、小荷田行男、桜井九郎、杉本秀樹、諏訪隆久、高橋夕香子、角田真喜子、長田朱美、福井恒人、逸見嶮、高橋達也、中島康夫、中島郁夫、馬場昇、林滋、町田好一郎、松井昭吾、三田長久、吉原俊雄、横山みどり、吉田博、吉田二三子、若林和子、若林正徳、渡辺泰子、渡辺嘉男 (39人)

9月17日(日) 浦和市 三室地区

人 55人 天気 曇 鳥 カイツブリ ダイサギ チュウサギ コサギ カルガモ コガモ サシバ コジュケイ キジ タカブシギ イソシギ タシギ シラコバト キジバト ツツドリSP カワセミ コゲラ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ セッカ エゾビタキ シジュウカラ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ ハシボソガラス ハシブトガラス (33種) 楽しみにしていたエゾビタキが林のはずれで出現。2年ぶりで熱烈歓迎。カワセミも久々に復活で一安心。

9月23日(土) 寄居町 鐘撞堂山

人 39人 天気 晴 鳥 カイツブリ コサギ ハチクマ トビ オオタカ ノスリ サシバ キジバト アマツバメ カワセミ コゲラ イワツバメ キセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ウグイス シジュウカラ メジロ ホオジロ スズメ ムクドリ カケス ハシボソガラス ハシブトガラス (25種) 前夜の雨も上がり、秋の雲が空一面に広がる探鳥会日和となった。今日サシバが出なければいつ飛ぶんだ!なんて言った手前、心配だった。でも、すぐに心配は吹き飛んだ。次から次へと湧き上がり、総数104羽。加えて、ハチクマ、ノスリ、オオタカ、トビ。終了後は、五百羅漢からトンボ博物館経由で玉淀ダムへ。皆さんお疲れ様でした。

9月24日(日) 本庄市 阪東大橋

人 55人 天気 晴 鳥 カイツブリ ダイサギ コサギ アオサギ カルガモ コガモ ヒドリガモ オナガガモ トビ キジ イカルチドリ イソシギ キジバト ヒメアマツバメ アマツバメ カワセミ ヒバリ ショウドウツバメ ツバメ イワツバメ ハクセキレイ セグロセキレイ ヒヨドリ モズ ノビタキ オオヨシキリ セッカ ホオジロ カワラヒワ スズメ ムクドリ オナガ ハシボソガラス ハシブトガラス (34種) 秋晴の1日。広大な河原で秋の使者ノビタキやショウドウツバメを探した。アマツバメが低く

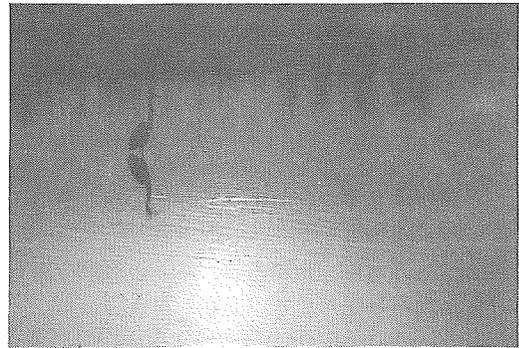
ヒュウヒュウ飛び、イタチも出没。昼食後、恒例になった栗ひろいを林幹事の実家でさせていただいた。いつも有難うございます。誰ですか?「鳥よりも栗が目当てだ」なんて言っていた人は。

9月30日(土) 『しらこぼと』袋づめの会

がんばってくれた人 岩波勇一、内山幹男、海老原教子、海老原美夫、角田真喜子、河辺達朗、鈴木秀男、中村治、藤野富代、森野洋一郎、森本國夫、吉田二三子、吉原俊雄、渡辺敦、渡辺孝章 (15人)

9月30日(土) 写真クラブ定例会

集まった人 18人 作品発表した人 6人



夕照 (町田好一郎・本庄市)

参加者の声

栗拾い探鳥会に参加して

金崎美代子 (花園町)

白い雲、青い空、まだ残暑厳しい利根河畔。リーダーの町田さんから阪東大橋の建設由来を聞き、知識を新たにして利根河畔の草原へ出発。上空では、ヒバリのさえずり、アマツバメ、ショウドウツバメの群舞。川辺ではダイサギの雄翔、あでやかな色のカワセミ。期待したノビタキは見られなかったけれど、4カ月振りに自然を充分満喫することができ、楽しい探鳥会でした。鳥合わせの後、美里町の林リーダーのご好意により、栗園を無料開放していただき、私ども一同、目を輝かせ喜々として和気藹藹のうちに栗拾いに興じさせていただきました。今日は林さん、林さんのお父様ありがとうございました。



### 1989 バードフォトコンテスト 入選作品が決まりました

69点ものご応募をいただき、9月17日(日)の役員会において慎重に審査の結果、次の作品が入選と選外佳作に選ばれました。

【入選】メジロ(増尾隆)、カワセミ・コサギ・コハクチョウ・イカル(町田好一郎)、キセキレイ・ダイサギ・オナガガモ・アマサギ(林 滋)、ミコアイサ・ハシビロガモ・カワウ・イワツバメ・ハクセキレイ・ササゴイ(登坂久雄)、メジロ・ウグイス(北川慎一)、キジ・オオヨシキリ(鈴木秀男)、チョウゲンボウ・ヤマセミ(市川計彦)、キジバト・カルガモ・アオサギ・ヒヨドリ・カワセミ・ツグミ・オナガ・アオバズク・ジョウビタキ(海老原美夫) 以上30点

【佳作】オオハシギ(金井祐二)、エナガ(日笠達夫)、ツバメ(渡辺敦)

今年も写真展、新聞連載、本誌の表紙写真などに次々登場します。お楽しみに。

### 渡良瀬遊水池にツツガムシ警報

渡良瀬遊水池に遠足に行った児童が2人あいついで発病し、栃木県のほうで調査した結果、地域内の野ネズミが高濃度に汚染されていることがわかりました。

渡良瀬遊水池に探鳥に行くときは、ツツガムシにご注意ください。

ツツガムシに刺されないようにするには、まず肌を露出しないこと。だから、レオタード姿やビキニの水着はだめ。潜水服や宇宙服が最適ですが、その用意がないときは、長袖・長ズボン・長靴を着用し、草むらの中には入らない、お弁当を食べるときに草の上に直接座ったりしない、帰ったらお風呂に入る、下

着を着替える、などに心がけてください。ダニよけ薬なども有効です。万一高熱が出た時には(潜伏期間約2週間)、風邪だと思いつまらずに、医師に申し出て、ツツガムシ病の検査を受けてください。

### ありがとうございます

次の方々からご寄付をいただきました。

海老原美夫 3,865 円、大武昭雄(個人的バードソン) 2,000 円と台所用品など、加藤衛 880 円、河辺達朗=切手コレクション、草間和子=包丁など、関口善孝 880 円、手塚正義=本棚など、富士山探鳥会参加者 3,400 円、逸見嶮 2,900 円、吉本富美子 1,000 円、リーダー研修会 2 次会組 3,041 円、渡辺孝章 100 円。  
(50音順、敬称略)

### 会員数は

10月20日現在 1,117 人です。

### 活動報告

9月17日 普及部会議、事業部会議、役員会議(司会:岡安征也、各部の報告、11月の事務局当番、年末講演会、バードフォトコンテスト審査、その他)。

9月25日 10月号校正(大武、西城戸、森本)。



娘が5歳の頃、こんな話をしてくれた。

神様がヒバリとオナガに、美しい声と姿のどちらを選ぶか尋ねたところ、ヒバリは声を採りオナガは姿を選んだ、というのである。

幼いなりに「天は二物を与えず」という事を踏まえた創作と思われるが、そういえば彼女はオオルリ・キビタキといった鳥を見たことがない。この夏も見せてやれなかったと、反省しきりの父である。

(榎本秀和)

『しらかばと』1989年11月号(第66号)

定価 100 円(会費に含まれます)

発行人 鈴木忠雄 編集発行 日本野鳥の会埼玉県支部 TEL・FAX 048(832)4062

〒336 埼玉県浦和市岸町4丁目26番8号ブルムローズ岸町107号 郵便振替東京9-121130

印刷 望月印刷株式会社

(本誌掲載記事の無断転載はかたくお断わりします)